

非経口摂取患者の口腔ケアに 対する職員の意識調査

静岡県

医療法人社団喜生会 新富士病院 看護科

○岩崎 乃都弥(看護師)



【はじめに】

近年、口腔ケアに対する関心が高まる中、当院では、口腔ケアを行う看護師により、口腔内環境に差が生じていた。そこで今回、意識調査アンケートを行い、改めて個別における口腔ケア方法・評価を周知してもらうことにより、スタッフの口腔ケアに対する意識が向上し、口腔内環境が改善できるのではないかと考えた結果、変化が現れた為ここに報告する。

【対象】

- 口腔ケアの業務を行なう看護師
- 平均年齢: 35.6 ± 11.0才 (22 - 62才)
- 平均経験年数: 8.1 ± 6.4年 (1 - 25年)

【方法】

① 意識調査アンケートの実施

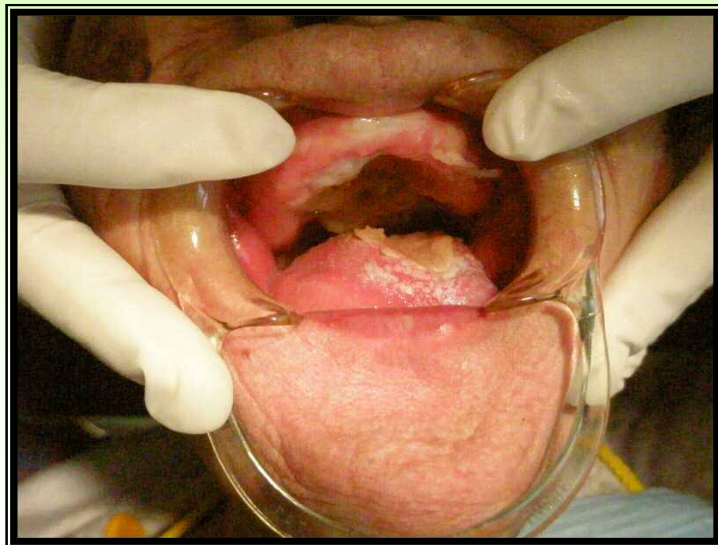
設問4は初回および4ヵ月後の2回実施し、変化の統計処理は、対応のあるt検定およびWilcoxon符号付順位和検定を用い、有意水準は両側検定にて危険率5%未満とした。

② 患者個別の口腔ケア方法の導入

③ 歯科衛生士による②の評価



- ①ビバジェルエツト
- ②ガーゼ
- ③舌ブラシ
- ④クルリーナブラシ
- ⑤歯ブラシ
- ⑥歯間ブラシ
- ⑦指ガード



口腔ケア前

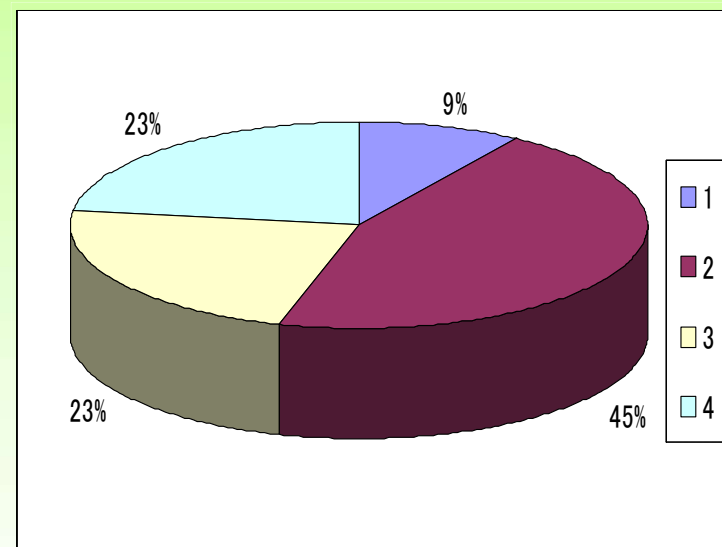


口腔ケア後

【結果】

設問1 患者様の口腔内の汚染は目立つと思いますか。

- | | |
|-------------|-----------|
| 1. とても目立つ | 2名 (9%) |
| 2. やや目立つ | 10名 (45%) |
| 3. どちらでもない | 5名 (23%) |
| 4. やや目立たない | 5名 (23%) |
| 5. とても目立たない | 0名 (0%) |

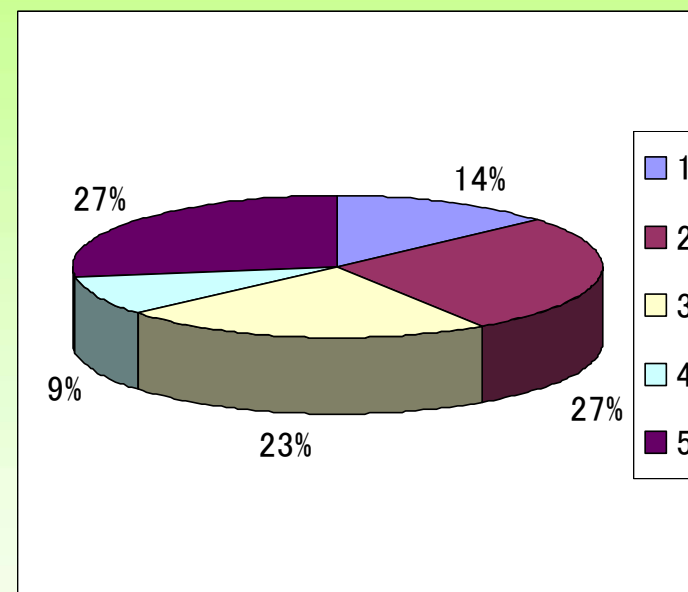


設問2 口腔ケアを行うにあたり大変だと思うことはありますか。

- ・口が開かない、開けてくれない
- ・抵抗される
- ・うがいができない
- ・対象患者様が多く十分な時間がかけられない
- ・歯間の汚れがとれない
- ・舌苔がとれない
- ・口腔内が乾燥しすぎている
- ・嘔吐を誘発する
- ・汚染、こびりつきがある
- ・痰により短時間で汚染される
- ・口角、口蓋が出血傾向
- ・麻痺がある
- ・ブラッシングしながらの吸引

設問3 1人の患者様の口腔ケアに費やす時間は概ねどのくらいですか。

1. 1分間以上2分間未満 3名(14%)
2. 2分間以上3分間未満 6名(27%)
3. 3分間以上4分間未満 5名(23%)
4. 4分間以上5分間未満 2名(9%)
5. 5分間以上 6名(27%)



※平均または記載時間の中央値より算出

設問4

①口腔ケアの個別性の重要性を理解しましたか。

1. 全く理解できない
2. やや理解できない
3. どちらでもない
4. やや理解できた
5. とても理解できた

統計処理

介入前	介入後	p値
3.9±0.9	4.3±0.8	0.004

(平均±標準偏差)

②口腔ケアの方法を理解しましたか。

1. 全く理解できない
2. やや理解できない
3. どちらでもない
4. やや理解できた
5. とても理解できた

統計処理

介入前	介入後	p値
3.6±0.7	4.3±0.8	0.0005

(平均±標準偏差)

③個別性に合った口腔ケアを意識して行えましたか。

1. 全く意識しなかった
2. あまり意識しなかった
3. どちらでもない
4. やや意識した
5. 常に意識した

統計処理

介入前	介入後	p値
3.6±0.5	4.2±0.6	0.0002

(平均±標準偏差)

④歯科カンファレンス用紙を活用できましたか。

1. 全く活用できなかった
2. あまり活用できなかった
3. どちらでもない
4. やや活用できた
5. しっかり活用できた

統計処理

介入前	介入後	p値
3.1±0.9	3.8±0.8	0.005

(平均±標準偏差)



【考察】

- スタッフ全員が個別に合った口腔ケア方法を統一して実施し評価を周知することで、情報の共有ができ口腔ケアに対する意識が高まった。
- 口腔ケアに対する意識が高まると同時に、口腔ケアを行う看護師により生じていた口腔内環境の差はみられなくなった。



【終わりに】

今後も、職員の意識付けに注目し、スタッフ全員で効率よい看護が提供できるよう意識調査アンケートを活用し取り組んでいきたい。